

## 知的障がい教育における**家庭科**を指導する時のポイント

# 「生活の営みに係る見方・考え方」とは？

特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編(下)(高等部)の家庭科において、下記のように示しています。

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とは、家庭科が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示したものである。この「生活の営みに係る見方・考え方」に示される視点は、家庭科で扱う全ての内容に共通する視点であり、相互に関わり合うものである。したがって、生徒の発達段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成などによって、いずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切である。

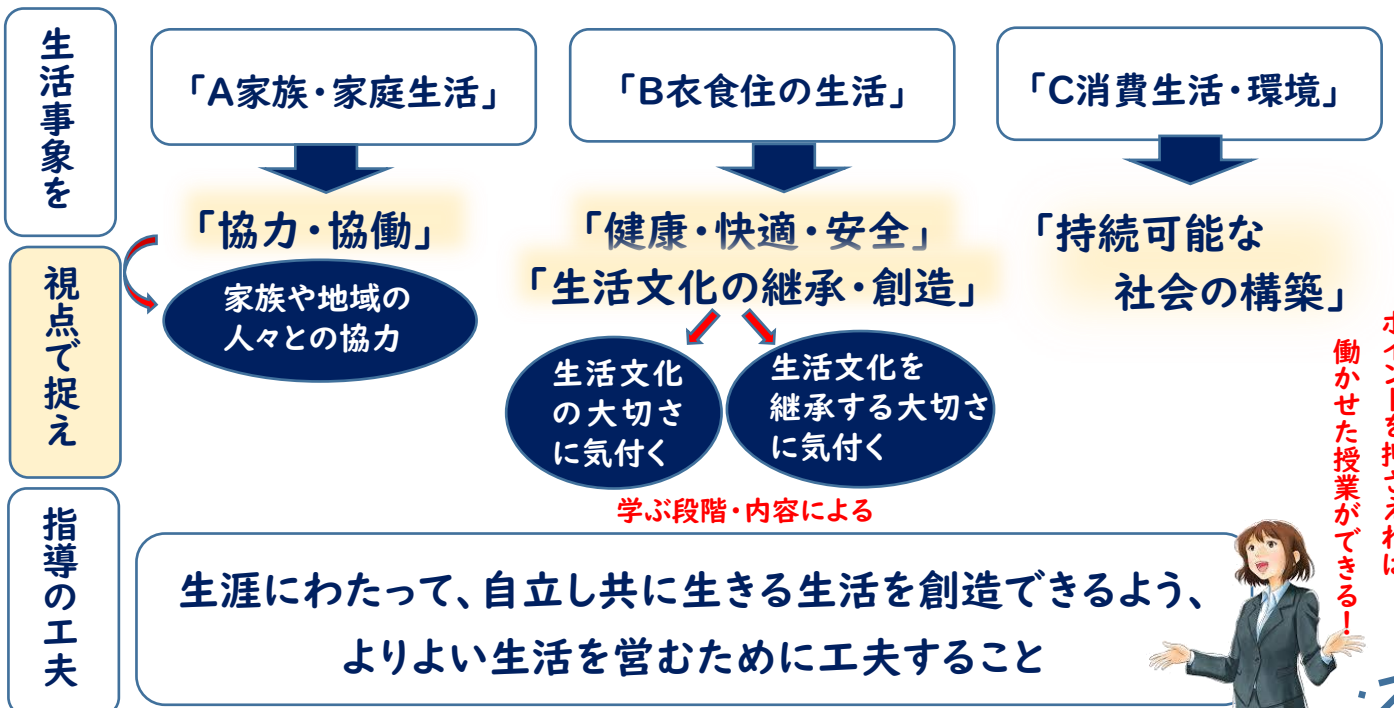
(下線部は相馬支援学校による。)



簡単に言えば、生活の事象をどの視点を重視しているのか**授業者が意識し、単元を構想していく必要**があります。

なお、「小学校学習指導要領解説家庭科編」「中学校学習指導要領解説技術・家庭科編」には、どの内容でどの視点を重視するか、その例を示しています。

### 「生活の営みに係る見方・考え方を働かせる」とは



# 実践例の紹介!!!

生活事象を

高等部1段階「A家族・家庭生活」エ

## 「高齢者の生活」

高等部2段階「B衣食住の生活」ウ

## 「私たちの衣生活」

視点で捉え

「協力・協働」

家族や地域の人々との協力

「健康・快適・安全」

生活文化を継承する大切さに気付く

高齢者の疑似体験から考える

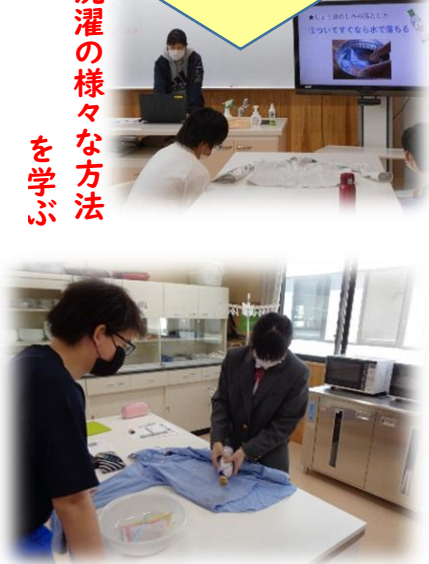


協力や協働の芽生えへ

### 指導の工夫



洗濯の様々な方法を学ぶ



漂白剤など、新しい知識を得て、実際に体験してみる

・自分の家族に高齢者がいます。ゆっくり歩いたり、腰曲げて歩いたりすることには、ちゃんと理由がありました。これからは、大変さを分かったから、家で、いろいろ手伝おうと思います。やさしくしたいです。

協力・協働や家族と協力の  
見方・考え方の広がり

### 生徒の声



・洗濯を家でやってみました。漂白剤とか、家にあることが分かったり、食べこぼしたらすぐに洗った方がいいことが分かったりしました。もし、今度そういうことがあったらすぐに洗ってみようと思います。

快適な生活や生活文化の継承  
の見方・考え方の広がり



今後も、本校の家庭科では、一連の学習過程を通して、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養っていきたいと思います。